

いま いま  
宮城は現在も現実に立ち向かう。

2016.9.11

# NOW IS.

Vol.  
5  
毎月11日発行  
ナウイズ



in 仙台







# 「Newspaper Pick-Up」

仙台市

震災当時と今の河北新報記事から見る、復興の歩み。



**消防団「一人でも早く」**  
 震災の発生から「四十九日」を迎えた平成23年4月28日、前日に若林区荒浜地区で行われた消防団員と地元消防団員による行方不明者捜索の様子が掲載されました。「沼は黒く濁り、泥水やヘドロ、油が混ざった臭いが鼻を突く。団員たちは、がれきや腐材が散乱する間を縫って進み、注意深く様子をつかがう」という記事からも分かるように、震災発生から1カ月半が過ぎても、荒浜地区の変わり果てた景色はそのままでした。  
 約740世帯のほぼ全戸が津波で流された荒浜地区。一面ががれきの中での捜索は困難を極めました。地元の地理に詳しい団員367人の力は、活動の大きな支えになりました。

## がれきの中での捜索活動



**人が集う場もう一度**  
 震災から5年2カ月が経過した平成28年5月11日、「荒浜の再生を願う会」代表・貴田喜一さんへの取材記事が掲載されました。自宅は津波で全壊。自宅跡に建てた活動拠点の集会所は、不審火とみられる火災で全焼。それでも貴田さんはくじけることなく「人が集う場がなければ古里再生は始まらない」と語ります。  
 平成23年12月、仙台市は沿岸一帯を人が住めない災害危険区域に指定。貴田さんも荒浜での自宅再建は諦めました。「今願うのは、荒浜に人の気配や営みを取り戻すこと。文化を伝え残し、自然を再生させたい。市内唯一の深沼海水浴場も再開できたらいい。今年度、願う会では、討論会「荒浜アカデミア」を3回開き、地区の将来像を探っています。

## 人々が集う荒浜地区に

◎河北新報社 ※記事の詳細はみやぎ復興情報ポータルサイトに掲載します。



被災直後の仙台市  
 無料アプリ「ココアル2」を起動し、上記の被災直後の写真にかざすと、現在(平成28年8月)の仙台市の様子がご覧いただけます。ぜひ、被災地の移り変わりをご覧ください。



(写真提供: Yahoo! JAPAN 東日本大震災 写真保存プロジェクト)



(深沼海水浴場入り口)

無料アプリ「ココアル2」をダウンロードしてご覧ください。

## 現在の仙台市

撮影地点  
 若林区荒浜

# AR

で見える  
 定点観測  
 Look at Miyagi

宮城県中部に位置する東北地方最大の都市、仙台市。東日本大震災では、ラインなど都市機能がマヒしました。また、沿岸部の宮城野区・若林区では津波により多くの家屋が倒壊・流失するなどの被害を受けました。  
 現在は、震災の教訓を踏まえた「防災環境都市・仙台」へ向けてさまざまな復興の取り組みが実施されています。

この人がこの町を盛り上げてます！

恒例行事から  
 想いが詰まった祭りへ。  
 生まれ変わる仙台七夕まつり。



鳴海屋紙商事 本部長  
 鳴海 幸一郎 さん  
 ●問い合わせ先  
 TEL.022-221-3451

飾り作りを通して  
 さらに広がる交流の輪。  
 「単なる恒例行事だった仙台七夕に『想い』がこもった。七夕は復興の力になると、そう感じています。」  
 鳴海屋紙商事は、明治時代から続く紙の卸問屋。130年以上仙台七夕まつりの飾り作りを続けています。同社部長の鳴海幸一郎さんは、これまでに数万本の飾りを作り続けてきました。いろいろ作っただけ、飾りを見て涙が流れたのは『あの飾り』だけ。これは伝説になつたな、と思いました。  
 鳴海さんがそう話す「あの飾り」とは、平成23年の仙台七夕まつりで飾られた、8万羽の折り鶴を使った吹き流しのこと。仙台市内189校の小中学生が真っ白な折り紙で1人1羽折ったものです。「あの飾りは、通常半年かけてつくるところを、2カ月足らずで完成させました。しかも、小中学生みんなです。人々の気持ちが集まればこんなことがやれるんだと、感極まるものがありました。」  
 青森ねぶた祭や秋田竿燈まつりが「動」なら、仙台七夕は「静」の祭り。だからこそ、人々の想いがこもる祭りなんだと鳴海さんは言います。「仙台の商店街にとって、仙台七夕はルーティーンでした。またこの時期か、大変だな。でも、震災を経て、あの飾りを見て、みんなの意識が変わった。復興や元気など、想いを込めて作る飾りが増えてきたように感じています。」  
 交流事業なども開催しており、今年は、外国人留学生や県内外の小中学生が作った吹き流しも登場。仙台市内の小中学生が作る七夕飾りは、震災以降毎年欠かさず作られています。飾り作りは根気がいる作業。復興への強い想いが大変な作業を支えているのかもしれない。「飾り作りを体験するなかで、毎日に感謝して、協力する気持ちが育ってほしい。私は黒子として、その後押しをしたと思っています。」



(左)震災の年に飾られた8万羽の折り鶴の巨大吹き流し。(右)色鮮やかな平成28年の七夕飾り。見る人に感動を与えました。  
 写真提供:仙台七夕まつり協賛会



石巻市健康推進課  
 阿部 総美 さん  
 今年4月から仙台市より石巻市へ派遣



健康推進課では、仙台から2人、札幌から2人、京都から1人保健師が応援に来ています。

## 石巻の孤立防止を含めた健康づくりを応援 復興住宅を訪問する毎日。

この人がこの町を盛り上げてます！

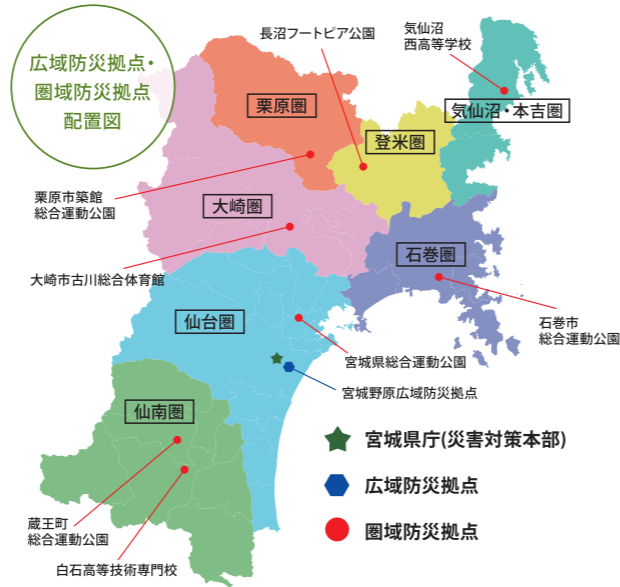
石巻での取り組み  
 仙台でも活かせるように。  
 宮城野区若林区で甚大な津波被害を受けた仙台市ですが、平成24年度からは、沿岸部の被災市町に応援職員を派遣する「支援する側」として活躍しています。今回は、今年度から石巻市に派遣されている保健師の阿部総美さんにお話を伺いました。  
 阿部さんの業務は、復興住宅に住む方々の健康調査。仮設住宅から復興住宅に移った方々の健康状態の確認や生活上困っていることなどをヒアリング調査しています。  
 課題はやはり、コミュニティの希薄さだという阿部さん。「仮設住宅の時よりゆとり生活で生活できるようになったけど、外に出ておしゃべりする機会が減っちゃったわ、と話す方も多いですね。わざわざ前に住んでいた仮設住宅の集会所に足を連ねて、イベントに参加する人もいますよ。」  
 一から町内会をつくる場所では、どのように住民同士のつながりをつくるかが課題になっています。「マンション型の住宅だと、ドアを開けて外に出るといことが、大きなハードルになっているようです。調査でつんだ健康課題を地域づくりの支援する方々と共有し、閉じこもる方が少なくなるように支援しています。」  
 今、石巻で学んでいることは、仙台でも活かすことができそうです。仙台市は人口が多いので、隣近所つながりが弱い地域もあります。高齢者や障害を抱える方々が地域で孤立しないように、保健師と支援する方々の連携を図っていくことができたらと思っています。」  
 仙台市から石巻市は、電車で1時間ほど。通勤という選択肢もありましたが、住むことを選択。生活しているからこそ見えることもあるなと感じています。石巻の方は、素朴な言葉の中に人の温かさを感じます。ごはんもおいしいし、遊びにおいてと自信を持って勧められる場所ですね。今は、石巻のためにできることを全力で。玄関をノックする日が続きます。



# 災害に強く安心して暮らせるまちづくりをめざして

## 広域防災拠点と圏域防災拠点の整備

県では、「創造的な復興」の実現に向け、東日本大震災をはじめとした過去の災害の教訓を踏まえ、被害を最小化し迅速な復旧を図る「減災」の考え方を基本方針とし、市町村や関係機関と連携しながら、防災機能の充実・強化に取り組んでいます。



### 広域防災拠点・圏域防災拠点の必要性

東日本大震災時には、消防や警察、自衛隊などの部隊を受け入れる拠点が十分確保できなかったこと、また、県内に大規模な物資集積拠点がなかったことから、被災地への適時適切な支援に支障が生じました。これらの教訓を踏まえ、県では、支援部隊の集結や物資の集配等の活動拠点として、仙台市宮城野原地区に広域防災拠点を、さらに、県内7つの圏域に圏域防災拠点を整備することにしました。

### 広域防災拠点・圏域防災拠点による市町村支援

支援部隊や支援物資は、被災した市町村の防災拠点に直接進出、輸送することが基本です。しかしながら、甚大な被害が発生した場合には、県では直ちに広域防災拠点を開設し、広域防災拠点と圏域防災拠点が連携して支援部隊や支援物資をいったん受け入れ、被災地に順次、進出、輸送して市町村の防災活動を支援します。

☎.防災や圏域防災拠点に関すること／県危機対策課 ☎.022-211-2376 広域防災拠点の整備に関すること／県都市計画課 ☎.022-211-3135

### 広域防災拠点の役割

大規模災害発生時に、ヘリコプターを含め大規模な支援部隊の集結場所や全国からの支援物資の集積場所となるほか、災害医療活動の拠点になるなど、全县をカバーする高次の防災拠点としての役割を担います。仙台市宮城野原地区は、仙台東部道路や仙台塩釜港、仙台空港に近く、災害時に優先的に交通が確保される緊急輸送道路にも接することから、人員や物資などの円滑な輸送が可能で、さらに、自衛隊の駐屯地や災害時の拠点病院となる国立病院機構仙台医療センターに近接し、広域防災拠点に最も適した場所です。

### 圏域防災拠点の役割

市町村の防災拠点が被災等で利用できない場合に、市町村が行う防災活動を支援する拠点で、部隊活動や物資の集積・配送拠点としての役割を担います。圏域防災拠点は、県内7つの各圏域をカバーできるよう、県や市町村の施設の中から、市町村と協議を行い選定しました。

## STAFF'S VOICE 取材こぼれ話

編集後記

今回仙台を歩いてもらったのは、元AKB48で女優の岩田華怜さん。復興ソング『花が咲く』を歌う姿を覚えている方も多いのではないでしょうか。印象的だったのは、強い意志を感じ

る目。取材中も「今いる場所から被災地の復興を支えるんだ」という、ぶれない想いを言葉の端々から感じました。どこにいても、どんな仕事をしていても、被災地を応援することは可能で

す。「自分がやれる範囲で、できることを」という支援の方法が、今後、被災地に新しい花を咲かせることになるのかもしれません。



住民がみんなで作った津波前のジオラマ(せんだい3.11メモリアル交流館)

宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) **10,553人** | 行方不明者数 **1,235人** 平成28年7月31日現在 宮城県危機対策課調べ

# NOW IS / NEWS in MIYAGI

復興や防災にまつわるニュースをお知らせします。



## in大阪

日時／平成28年10月8日(土)～10日(月・祝)の3日間  
8日【11:00～18:00】  
9日【11:00～18:00】  
10日【11:00～17:00】  
場所／大阪府吹田市 千里万博公園2-1 ららぽーとEXPOCITY (エキスポシティ)光の広場  
内容／ステージイベント、宮城物産販売ブース等  
☎.県食産業振興課 ☎.022-211-2813

県産品の生産及び製造においては、復旧・復興が進展していますが、原発事故に伴う風評被害などの影響により、需要は回復していない状況にあります。そこで、関西地区において県産品に触れる販売イベントを開催し、「食料王国みやぎ」の魅力を発信します。

## NEWS 02 「宮城もうまい!」フェア in 大阪」開催



石巻市立病院 ☎.0225-25-5555 <http://ishinomaki-city-hospital.jp/>  
県医療整備課 ☎.022-211-2617

平成28年9月1日、津波で全壊した石巻市立病院が石巻駅前に移転し開院しました。これで東日本大震災により被災した県内すべての病院で診療が再開されました。新病院は7階建てで、内科や外科など6つの診療科を備え、救急も含め高度な医療を受けることができます。屋上にはヘリポートが設置され、免震構造を採用し地震にも強い建物になっています。

## NEWS 01 石巻市立病院が開院しました



☎.仙台市まちづくり政策局 防災環境都市推進室 ☎.022-214-8098 <http://www.sendai-resilience.jp>

仙台市では、緑豊かな環境を活かしながら、防災力のあるまちをつくり、ひとをばぐくむ「防災環境都市づくり」を進めています。この取り組みを防災・減災や環境に関わる分野で活躍する「ひと」に注目して紹介するニュースレター「えーる」を創刊しました。仙台市役所本庁舎「市民の部屋」や各区役所などの市内公所などで配布。ウェブサイトにも掲載しています。

## NEWS 04 防災環境都市・仙台「ニューズレター」えーる」を創刊しました

家元の街通りを中心に夕方17時からランタンやキャンドルを灯し、オープンカフェ、ライブやワークショップなどを開催。本町商店街は「人と人の近い距離感」がコンセプト。本町が復興支援をしている荒井地区がランタンカパーなどを作成・展示し、人がつながり大人も子どもも笑顔になれるようにとの思いが込められたイベント。



日時／10月14日(金)、10月15日(土)  
場所／本町商店街界隈  
☎.本町商店街振興組合 ☎.022-221-4141

## NEWS 03 秋の長夜に月夜のお祭り本町ムーンライトマルシェ

## NOW IS / MIYAGI MEDIA INFORMATION

### 今の被災地をリアルタイムで

SNSでは、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。Facebook、Instagram、Twitterでご覧ください。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。



各SNSの検索窓で

### 復興情報をお伝えします

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、NOW IS.取材チームによるブログで情報を発信します。



みやぎ復興情報ポータルサイト <http://www.fukkomiyaagi.jp>

## Theme 5 避難所運営

誰もがお世話になるかもしれない避難所です。  
災害の規模によっては、避難所生活が長引くことも一。  
もしもの時にも、暮らしやすい環境を整えるノウハウ。  
日頃から、地域の人々と避難所運営について話し合っておきましょう。

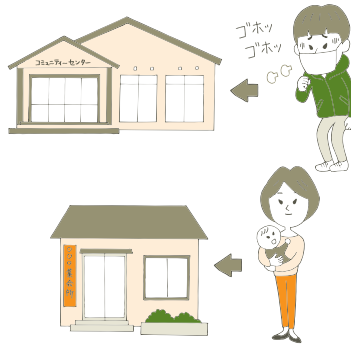
### 避難者の把握

避難者カード			
町内会名			
氏名			
性別	年齢		
備考欄			

#### 誰でも一目で分かる！ 避難者カードを作ろう

避難してきた人が自分の氏名・性別・年齢、所属する町内会名などを書き込める避難者カードを作っておきましょう。カード形式にすることで、効率よく記入でき、データ化や分類もしやすくなります。

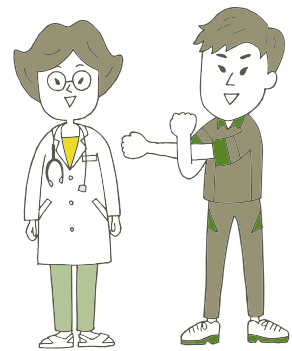
### 部屋割り



#### 避難所の近隣施設など 体育館以外の場所も活用！

近隣の集会所やコミュニティセンターなど、体育館以外の場所を活用できるように協議しておくことも大切。例えば、インフルエンザに感染した人を隔離したり、授乳室として開放することでプライバシーが守られます。

### 役割分担



#### 地域のいろいろな人材を 発掘しておこう！

日頃から地域にどんな人がいるのかを把握して、災害時にお願いしたいことを伝えてみましょう。例えば、医師がいれば健康相談、スポーツインストラクターがいれば避難所での体操指導をお願いすることが考えられます。

取材協力：東北大学災害科学国際研究所 佐藤 健 教授

### 防災コラム Vol.5

- ★地域コミュニティが運営主体に！
- ★事前に運営マニュアルを考えよう！
- ★女性の視点を取り入れよう！

避難所は学校に開設されることが多いですが、あくまでも運営主体は地域コミュニティ。町内会などで集まり、日頃からその地域に合った運営マニュアルを話し合っておきましょう。また、避難所では女性特有の悩みは気付かれにくく、後回しにされがち。運営側に女性の視点を取り入れることで、避難所運営がスムーズにいくこともあります。

佐藤 健 教授  
東北大学災害科学国際研究所



情報管理・社会連携部門災害復興実践学分野に所属。仙台市地域防災リーダーの養成プログラムや、地域に根ざした防災教育モデルの開発に取り組む。